乳幼児関係者の災害状況イマジネーション向上に関する実践と研究

○阿部　真理子[1)]，目黒　公郎[2)]

1）東京大学大学院　工学系研究科　社会基盤学専攻，abe@risk-mg.iis.u-tokyo.ac.jp
2）東京大学 生産技術研究所　都市基盤安全工学国際研究センター，meguro@iis.u-tokyo.ac.jp

1.　はじめに

乳幼児･妊産婦は災害時要援護者であるが，現状では，乳幼児施設の耐震性や災害後の乳幼児関係者の連携や支援体制等，防災上の様々な課題が存在している．災害発生前にこれらの諸課題に対処し，かつ起こった時に機敏に対応するためには，乳幼児（妊産婦含む）関係者の災害状況イマジネーション能力を高める事が不可欠である．

そこで，筆者らは災害状況イメージトレーニングツール目黒巻[1)]を開発し，2004-2005 年に東京都のモデル保育園等を対象として目黒巻を用いたワークショップ(目黒巻WS)を行った．また，2007 年には東京都と共同で地震を事例とする妊産婦･乳幼児向けの参照用災害状況ストーリーを作り，成果物としてパンフレット[2)]を作成して WEB 上での公開等を行った．

2.　目黒巻・目黒巻WS

目黒巻は，災害に備え，かつ起こった時に機敏に対応するために不可欠となる災害イマジネーションを高めるためのツールである．目黒巻の記入者は，まず災害条件（種類･規模等）や発災時の条件（季節，天候，時刻等）を決め，次に発災時の自分の状況（どこで誰と何をしていたのか等）を記入する．そして災害発生後の状況･行動･心境をイメージしながら，自分を主人公とした物語を巻物状の記入用紙に自由に書き綴っていく（図1）．様々な条件を変えることでストーリーがどのように変化するかを検討することが災害イマジネーション力の向上に繋がる．

目黒巻はイメージトレーニングツールとしての役割に加え，リスクコミュニケーションツールとしての役割も持っている．目黒巻WSの参加者は，各自が記入した目黒巻を並べ，時系列に沿って比較することで，互いの災害イメージや立場，志向を共有し，話し合う糸口を掴む．そして記入中に思い浮かんだ疑問点や問題点を議論しながら防災対策の戦略をたて，実際の防災対策に繋げていく（図2）．

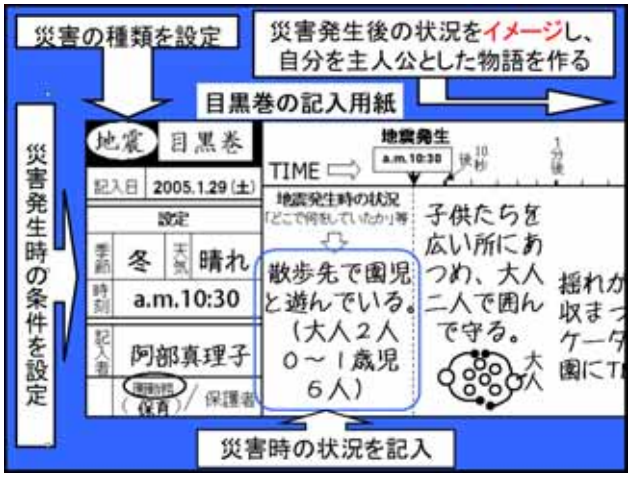

図1：目黒巻用紙と記入の流れ

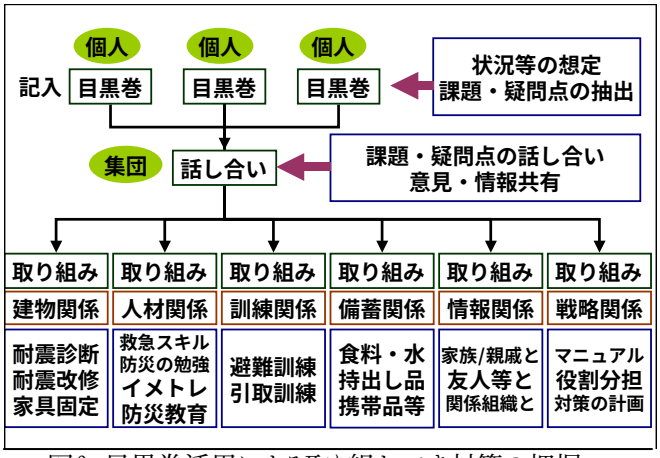

図2：目黒巻活用による取り組むべき対策の把握

3．目黒巻WSの実践と課題

筆者らは 2004-2005 年に東京都のモデル保育園等を対象として目黒巻を用いたワークショップ(目黒巻WS)を行った．記入者である保育園関係者や園児保護者の多くは，災害の実体験や防災について時間をかけて考えた経験がほとんどなかった．そのため，記入時に災害状況が思い浮かばず書き始めるのに時間がかかったり，あるいは記入途中で筆が止まったりしがちであった．また，明らかに整合性の取れていない状況を書く，書いたストーリーの妥当性を判断できない等の状況も見受けられた．これらの状況を踏まえ，筆者らは乳幼児関係者が災

害時の状況を過去の災害事例やシミュレーション等を踏まえて適切にイメージし，現状認識とそれに基づく対策の考案･実施に繋げるための支援環境作りが必要と考えるようになった．

4．参照用災害状況ストーリーの作成

2で述べた支援環境作りに向けた一事例として，筆者らは 2007 年に東京都の妊産婦･乳幼児保護者を対象として，過去の災害事例を活用した参照用災害状況ストーリーを作成した．東京都を対象として選んだ理由は，多くの区市町村を抱えた大都市であること，そして自他共に認める全国の自治体のオピニオンリーダーであることから，内部･外部双方向への波及効果が大きいと考えたからである．

参照用災害状況ストーリーの材料として，新潟県中越地震（2004）等の被災経験を持つ妊産婦･乳幼児保護者を対象としたアンケート調査を分析し，内容を整理した．また東京都の「子どもを守る災害対策検討会」で福祉･防災各分野の知見を収集した．

目黒巻の記入者にとって役立つのは，自分のイメージしようとしている災害状況と類似した他の人の災害状況やその時の行動，その状況に陥った人の心境や教訓である．しかし，アンケートの体験談および教訓は，そのまま伝達するには分量が多すぎて読み手の負担になる．また，被災地と東京の地域特性等を踏まえずに現地の教訓をそのまま伝達することは適切ではない．そこで，アンケートの体験談･教訓を各特性に応じてカテゴライズし，限られた紙面上で盛り込むべき内容を考えてストーリーを完成させた(図3･図4)．

この参照用災害状況ストーリーと家，部屋，防災用品，情報の4項目にカテゴライズした事前対策リストを対応させ，さらに構成･デザインを加えて妊産婦･乳幼児保護者向けのパンフレットを完成させた．このパンフレットは，東京都福祉保健局のウェブサイトから自由にダウンロードできる．今回は製作時間･伝達媒体の都合上，2パターンの災害状況ストーリーの作成に止まったが，将来的には各人が災害状況ストーリーを相互参照して，情報や意見を交換しながらそれぞれの災害イマジネーションを高めあっていける環境を整備したいと考えている．

5．さいごに

本論文では，2004年から現在までの，乳幼児関係者の災害状況イマジネーション向上に関する筆者らの取組みを概説した．筆者らは2004年に目黒巻の開発を行い，2004年以降様々な場所での目黒巻WSの実践を行ってきた．また，目黒巻を活用した防災力向上サイクル確立のための支援環境作りとして，行政と共同で妊産婦･乳幼児保護者向けに，過去の災害事例や専門的知見に基づいた参照用災害状況ストーリーを作成しパンフレットとしてまとめた．今後はこれらの実践･研究を踏まえ，乳幼児関係者の防災対策のためのさらなる支援環境作りを行う予定である．

謝辞

本研究では，東京都のモデル保育園および東京都福祉保険局少子社会対策部子供医療課の方々に大変お世話になりました．心より感謝しお礼申し上げます．

	Case 1	Case 2
主人公	妊婦(専業主婦)	乳幼児の母(共働き)
家族	夫(会社員)	夫(会社員) 長女(2歳)
自宅	賃貸アパート(築10年)	木造一戸建(築30年)
地震	冬の休日17時 調理中 震度6強	夏の平日17時 勤務中 震度6強
妊産婦・乳幼児の特性	寒さの影響 妊産婦の身体	暑さの影響 子どもの変調
事前準備の必要性	②部屋 ③物品 妊婦用品	①家 ④情報 安否確認
災害状況・行動	家具転倒 疎開 怪我・体の不調	家屋倒壊 帰宅困難 火災延焼 避難所生活

図3：ストーリーの設定と盛り込む内容

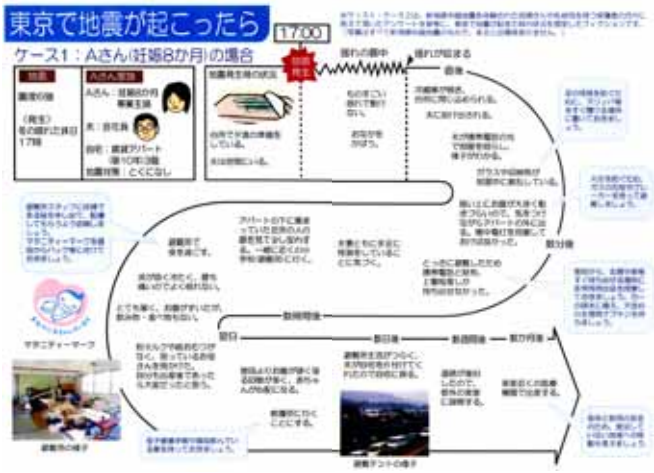

図4：参照用災害状況ストーリー

参考文献

1) 阿部真理子,目黒公郎：保育園等の防災力向上に関する研究―保育園等での防災ワークショップ，土木学会年次講演，2005.

2) 東京都福祉保健局少子社会対策部子ども医療課：地震がくる前に子どものためにできること ～お母さん･お父さんになったあなたへ～，2007.
(http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/bosiho/saitai/bousai_pamphlet.html)